



## 巻頭言 “医療と福祉の街” きよせ

院長 工藤 翔二

先日、横浜の国際会議場で開かれた学会に参加した帰りに、会議場に隣接した“みなとみらい駅”に行ってみた。乗ったのは特急飯能行き。1時間10分で清瀬に着いた。清瀬からは有楽町の国際フォーラムへも直行できる。ずいぶん便利になったものだ。

5年前、30年も働いた文京区から複十字病院に移ったときの最初の印象は、なんて緑の多い街だろうという爽やかな驚きだった。そして、駅や街のそこかしこに酸素ボンベを引く患者さんの姿。“緑と呼吸器の街”、それが第1印象だった。間もなく、それに“医療と福祉の街”という確かなイメージが重なっていった。清瀬市内の病床数は2,200床を超え、人口千人あたりの病床数は多摩26市のなかで1位。市内にある国立看護大学校、明治薬科大学、日本社会事業大学、結核研究所、労働安全衛生総合研究所と病院通り突き当りの国立感染症研究所ハンセン病研究所センター（東村山市）の存在は、まさに“医療と福祉の街”に相応しい。

複十字病院は、「結核・呼吸器」、「がん」の専門医療とともに、生活習慣病対策や二次救急など地域医療への貢献に努めてきた。この4月に発足した「認知症診療支援センター」もその一つである。地域医療は“連携”によって支えられている。病院と病院（病病）、病院と診療所（病診）の連携はもちろん、訪問看護ステーションや調剤薬局、介護・福祉施設など多面的、多角的な連携

である。昨年始まった「きよせ吸入療法研究会」も病院・診療所と調剤薬局の薬剤師さん達との医薬連携である。

複十字病院は10年前から、近隣地域の240名を超える開業医の先生方と「登録医会」をつくって、“顔の見える連携”を進めてきた。複十字病院では、何人かの登録医の先生方がお忙しい時間を割いて、外来の一コマを担当して下さっている。究極の“顔の見える連携”と言えるかもしれない。有り難いことである。そのお一人、泌尿器科の平野功先生（平野クリニック院長）が、このたび清瀬市医師会会長に就任された（2頁）。私も学術担当理事として名を連ねさせていただいている。清瀬市医師会の先生方は若々しく、力を合わせて清瀬市と北多摩の医療の充実に取り組んでこられた。複十字病院は、その一員として求められる役割にお応えしたい。

日本は「人口減少」時代を迎えているが、清瀬市の人口は今も増加を続け、2013年には7万4千人を超えた。一方、高齢化率（65歳以上の占める割合）は25.3%と、東京都の23区および26市の中で1位になっており、北多摩北部地域の医療需要は「2010年から35年にかけて2割から3割程度増加する」（高橋泰国際医療福祉大学大学院教授）とされる。そんな近未来を見据えながら、“医療と福祉の街”ならではの連携を発展させて、医療と介護を必要とする市民を支えてゆければと思う。

## 泌尿器科の平野先生が 清瀬市医師会長 に就任されました!!



清瀬市医師会長

**平野 功**

4月より清瀬市医師会長となりました、平野 功です。

私は、高知県土佐清水市出身、平成4年より、この清瀬で泌尿器科診療を始めました。また平成10年より、介護保険導入以前から在宅医療を行ってきました。気が付けば、21年にわたり清瀬の診療に携わっております。

私は複十字病院に尾形名誉院長よりお誘いを受け、微力ながら泌尿器科外来の手伝いをさせて頂いております。庶務課に確認をしたところ、平成19年6月4日に入職しておりました。これも、気が付けば早、6年が過ぎております。

当時、すでに開業しておりましたが、清瀬の泌尿器科診療のため自院と隔てなく努力してまいりました。

複十字病院泌尿器科の歴史ですが、私の記憶の範囲では、40年以上前にさかのぼります。

立川共済病院（私の恩師である、故、長久保一郎先生）より始まり、現在の林先生、堀口先生へと、慶応のドクターが多くに診療にあたって来ました。私もその中で診療を行えたことに、心から感謝致しております。

複十字病院は、清瀬市医師会にとっても最も重要な病院と考えています。従いましてこの度、医師会長として複十字病院登録医会の幹事に加えて頂くこととなりました。

また、工藤院長先生は我々の学術担当理事をお願いしております。先日の特設検診講演や今秋予定の三師会学術講演も企画等、ご指導いただいております。

今後とも積極的に医師会との交流を充実していきたい所存でございます。

近年、顔の見える関係が叫ばれております。この度、清瀬市医師会も病病連携、災害対策の協議会を立ち上げました。これからネットワークを作るところでございます。多種多様の協議会、委員会を運営していくには、いずれも専門的な知識が要求されております。医療機関だけではなく、行政も、介護職も、多職種の連携が不可欠です。2次医療圏、各地域完結、各市民のために力を集結しましょう。このためにも、医師会から病院へ積極的にアプローチしようと思っています。つきましては、医師会にB会員という制度がありますので是非会員になって頂ければと思います。多数の先生方の積極的な参加を、様々な協議会に頂ければ幸いです。

その後の、健康日本21にネットワークを継がなければなりません。ここ1年が勝負と思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## 「都立駒込病院」前院長による 総合内科・がん相談外来 を開設しました!!



総合内科・がん相談

**佐々木 常雄**

このたび5月から毎週水曜日に「総合内科・がん相談」外来を始めさせていただきました担当医の佐々木常雄と申します。外来の内容と自己紹介をさせていただきます。

総合内科は、どこの科に掛かったらよいのか分からない、あるいはどこの科に紹介すべきか迷うような患者さんを、外来で診察させていただき、診察の結果によっては専門の科に紹介するような科です。

数年前から都立駒込病院で総合診療科の外来を手伝っておりました経験から、お役に立てるのではないかと思いますして工藤翔二院長にお願いをいたしました。

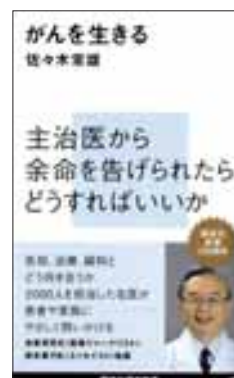
また、私は都立駒込病院に腫瘍内科（化学療法科）医として37年間も勤務させていただきました。この間、主に進行したがん患者さんを担当し、実際に最期を看取ったがん患者さんは2,000人を超えます。このような経験から、各種のがんの患者さんの相談にのることができるのではないかと考え、東京都がん協病院でもある複十字病院において、「がん相談」の外来を始めさせていただきました。

日本は世界に類を見ない急速に超高齢社会となり、そして医療の財政難の状態にあります。最近では「60歳を過ぎたら病院へ行くな、平穏死、しっかりした死生観を持て、ほどほどに死ぬ哲学、」などと書かれた本がよく売れているそうです。

私は「生きたい」と言えなくなるような、「役に立たない者は早くいなくなれ」のような雰囲気社会になることがとても心配です。

たくさんの矛盾を含んだ社会ですが、医療否定ではなく、地域連携を密にして、どんな場所で、どんな状況なら終末期でも安心して過ごせるか、今は日本人の知力が試されている時代であると思っております。

微力ですが、地域の医療に少しでもお役に立てるように頑張りたいと思います。なにとぞ宜しくお願いいたします。



# “呼吸の日記念フォーラム 2013” が開催される…… 工藤院長が実行委員長を務めました !!

毎年、5月9日・呼吸の日を記念して、結核予防会、日本呼吸器学会、日本医師会の共催、厚労省など20団体の後援で開催されるフォーラムも今年で6回目。5月11日（土）日本医師会館で、1,000名を超える応募者のうち300名が参加して開催され、工藤院長が実行委員長を務めました。今年のテーマは、“みんな知ろうCOPD—はばたけ健康日本21（第2次）—”でした。第Ⅰ部では宮崎雅則厚労省課長、別役智子慶應大学教授、関根康雄東京女子医大教授の講演。第Ⅱ部では、元神奈川県知事の松沢成文さん、元ラグビー日本代表の今泉清さんを迎えて座談会“肺年齢体験と私の健康法”、佐野裕子さん（順天堂大学）による呼吸リハビリテーションの実演。「12人のヴァイオリニスト」ピックアップメンバー6名によるミニコンサートなど盛り沢山。この日、会場ロビーでは「肺年齢測定体験会」が開催されました。



松沢さん、今泉さんを迎えて座談会（司会は工藤院長と道永麻里日本医師会常任理事）〈朝日新聞提供〉

## “鳥越俊太郎の医療の現場” 複十字病院総出演

5月25日BS朝日で放映された“鳥越俊太郎の医療の現場”（提供：日本医師会）は、世界禁煙ディ（5月31日）を控えて、“肺の生活習慣病 COPD ～命を奪う病の実態～”がテーマでした。制作には呼吸ケアリハビリセンター、訪問看護ステーション、臨床検査科が全面協力。工藤院長、吉田直之呼吸ケアリハビリセンター長をはじめ6人の職員が登場。患者様にもご協力いただきました。有り難うございました。COPDの予防と早期発見に役立つことを願っています。



# 放射線診療部が充実しました。

**放** 射線診療部は、画像診断、PET/核医学、放射線治療の3部門からなり放射線をとおして皆様に診療を提供させていただいております。昨年秋より放射線診断科長として虎の門病院から黒崎敦子医師が赴任されています。呼吸器画像診断の第一人者です。この春よりPETセンター長として癌研有明病院でも活躍された早坂和正医師、放射線技師長として国立がんセンター東病院から花井耕造副部長が新しく赴任され

ました。花井博士は検診CTの分野の第一人者で肺癌の早期発見にも力を入れております。高齢者にも優しい、がん放射線治療は伊藤正光医師が従来より担当しています。新しいスタッフも加え医師5名、放射線技師13名とコメディカルからなり益々充実した診療科となっております。「病む患者様のお気持ちを受けとめて」皆様により良い診療を行っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。（伊藤正光）



部長（放射線治療科長） 伊藤正光



副部長（放射線診断科長） 黒崎敦子



診断科 小柳尚子



診断科 阿部武彦

お問い合わせ

複十字病院 放射線科

042(491)4111 〈代表〉



副部長（PET／核医学科長） 早坂和正



副部長（技師長） 花井耕造

## ◎ 着任の挨拶 ◎

### 早坂 和正

複十字病院は2度目の赴任となります。放射線診療に携わり34年になります。最近は画像診断にもコンピュータ解析が用いられるようになりました。18年ほど前、名大の石垣教授とお話しをした時、コンピュータ解析が進めば将来画像診断医は生き残ることができであろうかと話題になりました。第1級のプロ棋士でさえ負かされる時代になり、解剖学的診断領域のみではコンピュータの方が優れるようになるでしょう。その時、我々診断医は臨床所見や臨床医の要求を把握することが重要で、また、より診断に適した画像を得るため画像診断医と診療放射線技師などとの連携とお互いに切磋琢磨することが重要とされると思われます。国立の研究センターや大学病院とは異なり地方の民間病院から日本・世界に情報を発信し続けることは難しいと思いますが、日本・世界から発信される情報を見開く精神が必要だと思います。

### 花井 耕造

本年4月より放射線診療部に就任いたしました診療放射線技師長（診療部副部長）の花井です。趣味は秘湯巡り。露天に入り、視野いっぱいに広がる青空を見上げる時は至福の時間です。放射線診療部では大型医療機器を用いて様々な方法により、多くの情報を持つ画像が作成されています。そして専門医の資格を持つ放射線科医により、様々な疾患の情報が画像より読み取られる画像診断業務が日々、行われています。これらの高度画像診断情報は複十字病院だけのものではありません、高度画像診断情報を地域医療機関に積極的に配信し、そして共有することで連携医療機関、そして地域の先生方と複十字病院をつなぐ高度画像診断情報センターとしての役割を担って行く必要があります。これからの複十字病院放射線診療部に期待してください。

# 看護の日のイベント

ナイチンゲールの誕生日である5月12日に、看護部では看護の日のイベントを行っています。今年は5月10日（金）9時～15時、玄関ホールにて開催しました。今年は『看護が私を強くする』をテーマに、各部署からポスターが展示され、様々なアイデアの作品がありました。今回ポスターの場所が目立たなかったのが残念でしたが、今回は工夫をしていこうと思います。

複十字シール坊や登場のサプライズもあり、昨年より参加人数も多く、大好評でした。イベント内容は以下の通りです。

血圧測定、体脂肪率測定、看護なんでも相談、手洗いコーナー、血糖値測定、栄養相談、介護用品展示をはじめ、職員作品の手提げ袋や小物入れ、職員家族の作品一輪差しの飾り、療養型病棟患者様によるストラップ、患者様の写真展、賑やかな1日となりました。来場された方も大変喜んで下さる方が多く、『来てよかった』『楽しかった』『これからも続けてほしい』など声をかけて下さいました。これからも工夫を凝らして、皆様に楽しんでいただけるイベントにしていきたいと思っています。

次回、イベントに参加して作品を展示したいと思われた方、ぜひご協力お願い致します。



## 各イベント報告

- ❖ 血 圧 測 定 72名  
正常値入りの用紙に測定値を書き入れて渡しました。
- ❖ 体 脂 肪 率 測 定 72名  
正常値入りの用紙に測定値を書き入れて渡しました。
- ❖ 手 洗 い 76名  
実際に手を洗っていただき、グリッターバグという洗い残しが光って見える装置を用いて、洗い残しやすい部分を確認していただきました。
- ❖ 看護なんでも相談 5名
- ❖ 健 康 相 談 105名
- ❖ 血 糖 測 定 147名

平成25年看護の日イベント担当 稲垣 絵美子

## 「第4回結核予防会事業所学術発表会」が開催されました

2013年6月8日（土）14：00より結核研究所4階講堂において、第4回結核予防会事業所学術発表会が開催されました。今回の発表テーマは「高齢化社会」で、当院をはじめとした結核予防会各事業所より10演題が発表され、活発な質疑応答が行われました。当院からの演題は以下の3題です。

### 1. 「高齢者結核の問題点」

- 佐々木結花（複十字病院 診療主幹）、吉山崇、奥村昌夫、森本耕三、久世眞之、國東博之、矢野量三、中川嘉隆、内山隆司、早乙女幹朗、吉森浩三、倉島篤行、尾形英雄、工藤翔二

### 2. 「老化と脳核医学」

- 飯塚友道（複十字病院 認知症診療支援センター長）

### 3. 「高齢化社会における腹腔鏡手術」

- 渋谷学（複十字病院 消化器センター内視鏡科長）、片岡功、小山英俊、中浦寛、生形之男、池田義毅

\* ● は発表者



# 大活躍の“院内美化委員会”（通称）

## 「WHAT庭園作業？」「WHY庭園作業？」「庭園作業NOW！」

庶務課 瀧口 竜太

最近、手の爪に付いた泥の汚れが取れなくなってきました…

きっかけは簡単でした。思い起こせば昨年の夏、患者様の植えたある植物をあまりに荒れ果てた当院の庭園だった為に、どれが「雑草」でどれが「植物」だかわからずに整備の方が刈ってしまい、患者様にこっぴどく怒られた悪夢から始まりました。

当初は患者様の植えられる花壇だけを作ろうと志を高く持ち、中央監視の方にご協力いただき気温が35℃を超える中、庭園作業に関しては素人の大人7～8人で低木を無心で引き抜く事に徹しました。予想どおり1本抜くのには最初は半日かかりました…

それから1年、夢と理想は広がり毎月コンスタントに作業を行い、院長を始め中央監視室や色々な方からアドバイスやご協力を頂き、終に写真のようにまでなって参りました。

ここまで来るのに年を考えずに作業した結果、足・腰の筋肉痛に日々悩まされたり、冬の作業なのに体から噴き出る尋常ではない発汗に驚かされたりと色々な発見や感動がありました。おかげで今では雑草の数が10種類は言える様になりました！（どうやら清瀬市ではここにしか咲いていなかった「12一重」と呼ばれている貴重な雑草を豪快に抜いてしまったようですが……）ご協力いただいた方々本当にありがとうございました。

清瀬市の方からも立派なイスを寄贈していただきました。

広い場所ですので患者様のみならず職員の皆様の休息所になれるように、これからも作業（一応事務員なので毎日とは出来ませんが…）を行ないますので、ご興味のある方は是非一緒に作業致しましょう！

また現在、院内に装飾されている絵画・写真も整備し始めており、その件については次号等で紹介出来たらと考えております。

### BEFORE



### AFTER



寄贈していただいた「けやき」の椅子にて清瀬市「水と緑の環境課」原田課長（左）と、中央監視室小林室長（右）と記念写真を撮りました。



今年の春、正面玄関前の花壇、ご覧いただけましたでしょうか？そこには、チューリップとスイセンの2種類の花が植えてありました。実はその花の球根、新しく購入した物は1つもないのです。あの花壇は、それまで、さまざまな方が球根を植え春に花を咲かせていました。

ちょうどおとしの秋に、どれくらいの球根が土の中にあるのかと思い、あの花壇の改良も兼ねて掘り起こしてみたところ、なんと約400個の球根が出てきました。それなりに整列して植え、その後秋篠宮妃紀子様より賜った新種のスイセンを加え、昨春その8割が花を咲かせました。花が枯れた後しばらく球根を育てるために放置し、取り出し、10月まで冷暗所に保存、そして植えました。今年の春咲いた物は賜った物は2代目ですが、その他の物は何代目かもわかりません。皆さんも放置したままになっている球根がありましたら、試してみたいはいかがでしょうか。

## 素敵な“けやき”の椅子 (清瀬市より寄贈)

倒木などの心配で伐採されたけやき通りの“けやきの木”が生まれ変わりました。

数十年にわたって市民を見守ってきた“けやきの木”が今度は姿を変えて複十字病院の庭に休息の場を提供してくれました。

是非、散歩の途中にでも一休みしてくださいね！



# 永年勤続職員 が表彰されました

優秀な成績で永年に渡り当院に勤務をした職員が、結核予防会本部の主催する「永年勤続職員表彰」を受けました。今年度は30年表彰が3名、20年表彰が13名で合計16名が表彰されました。

| 年数    | 所属／役職 | 氏名                                                                                              |
|-------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 30年表彰 | 副院長   | <br>お 尾 英 雄  |
|       | 看護部   | <br>しん 堂 恵 子 |
|       | 看護部   | <br>うえ 田 三 枝 |

| 年数    | 所属／役職              | 氏名              |
|-------|--------------------|-----------------|
| 20年表彰 | 看護部 副部長            | なる せ 瀬 まゆみ      |
|       | 相談支援センター 医療相談室長    | とみ 田 ひで 秀 樹     |
|       | 放射線診療部 放射線技術科 科長代理 | いの 井 うえ 博 や矢    |
|       | 事務部 庶務課 主任         | き 木 ま 京 こ       |
|       | 臨床検査部 臨床検査技術科 主任   | くさ 草 の 野 行 はる 治 |
|       | 薬剤科 主任             | ほり 堀 ぐち やす こ    |
|       | 看護部 主任             | しの 篠 り 村 むつ 子   |
|       | 看護部                | た 田 なか ひと み 美   |
|       | 看護部                | し 清 みず きよ 子     |
|       | 看護部                | みや 宮 はら よう 子    |
|       | 看護部                | こ 小 ばやし よし え 江  |
|       | 看護部                | すが 菅 はら さゆり     |
|       | 看護部                | しば 柴 た 田 あき 昭 子 |

## 複十字病院理念

私たち複十字病院の職員一同はこの理念を常に念頭において研鑽し、努力いたします。

1. 私たちは患者さま中心の医療を行います。
2. 私たちは皆様の健康を第一に考え、人格を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 私たちは開かれた、信頼感のある医療と温かい看護を提供します。
4. 私たちは最新で最良の医療を提供します。
5. 私たちは地域の医療、保健、福祉に積極的に参加します。

## ● 複十字病院の基本方針 ●

1. 一般急性期病棟と療養型病棟の複合型病院として、高齢化する地域社会に貢献するとともに関東ブロックの結核拠点病院として結核予防会の使命を果たす。
2. 複十字病院登録医会を中心として、病診、病病連携を推進し地域医療に貢献する。
3. 職員教育を充実させ、患者さまへのサービスと医療の質的向上を図る。
4. 在宅医療、救急医療の充実を図るとともに、検診事業の内容を発展させ新しいがん検診システムを構築する。
5. 院内、院外の情報システムを充実し、地域社会に積極的に参加する。
6. 職員の原価意識を高め、健全な病院経営を行う。
7. 患者さまは年齢、性別、地位に関係なく十分な説明に基づいた治療を受け、第三者の意見を聞き、診療情報の開示を求める権利を有する。
8. 危機管理を充実し、医療事故防止に努める。

## 人 事 異 動

### 【採用】

|          |         |      |
|----------|---------|------|
| (医 師)    | 早 坂 和 正 | 4/1  |
| (医 師)    | 渡 邊 雅 人 | 4/1  |
| (医 師)    | 山 名 一 平 | 4/1  |
| (医 師)    | 片 岡 功   | 4/1  |
| (放射線技師)  | 花 井 耕 造 | 4/1  |
| (臨床検査技師) | 須々木 ひとみ | 4/1  |
| (臨床検査技師) | 輪 島 愛   | 4/1  |
| (事 務 員)  | 平 間 幹 人 | 4/1  |
| (看 護 師)  | 香 西 瞳   | 4/1  |
| (看 護 師)  | 工 藤 裕 美 | 4/1  |
| (看 護 師)  | 中 村 由 美 | 4/1  |
| (看 護 師)  | 山 田 純 子 | 4/1  |
| (看 護 師)  | 大 窟 智 子 | 4/1  |
| (看 護 師)  | 松 永 砂保里 | 4/1  |
| (看 護 師)  | 内 野 まどか | 4/1  |
| (看 護 師)  | 平 塚 啓 美 | 4/15 |
| (放射線技師)  | 菅 島 康   | 5/1  |
| (社会福祉士)  | 長 田 聡 美 | 5/15 |
| (看 護 師)  | 田 中 裕 美 | 5/15 |
| (看 護 師)  | 荒 川 智 香 | 6/1  |
| (看 護 師)  | 本 間 靖 代 | 6/1  |

### 【退 職】

|         |         |      |
|---------|---------|------|
| (医 師)   | 小 西 寿一郎 | 3/31 |
| (医 師)   | 若 松 喬   | 3/31 |
| (薬 剤 師) | 高 田 陽 子 | 3/31 |
| (放射線技師) | 雨 宮 謙 太 | 3/31 |
| (放射線技師) | 相 方 美 咲 | 3/31 |
| (看 護 師) | 佐 藤 幸 子 | 3/31 |
| (看 護 師) | 堀 口 博 子 | 3/31 |
| (看 護 師) | 小 林 久美子 | 3/31 |

## 行 事 予 定

### 1. 登録医会第11回総会

日 時▶2013年7月13日(土) 16:30  
場 所▶結核研究所 講堂

### 2. 職員健康診断

日 時▶2013年7月22日(月)・23日(火)・24日(水)  
場 所▶結核研究所

## 防災訓練実施

2013年5月22日(水) 午後3時より院内防災訓練を結核研究所と合同で実施しました。地震を想定した訓練は昨年に引き続き2回目となり、火災訓練も併せて行いました。

今回は震度6強(マグニチュード7.2)を想定し、昨年の反省を踏まえて初期行動の徹底、さらに上層階病棟における患者様の運搬方法に重点を置き、外部からの患者様及び入院患者様緊急処置対応として陰圧テントを設置しました。

患者役、避難誘導役、報告係等に分かれて実施、その後、清瀬消防署立ち会いの下、消火器、消火栓訓練、起震車にて震度体験を行い、最後に消防署より講評をいただき終了しました。



## 編 集 後 記

「あかれんが」は病院院内報として1988年8月に創刊、以後年4回絶えることなく発刊され、今回めでたく第100号を出す運びとなりました。これもひとえに歴代の編集委員の皆様、原稿を書いていただいた職員の皆様、またこれをささえていただいた読者の方々のおかげだと思っております。現在の編集委員の一人としてここにあつく御礼申し上げます。今後150号、200号と続いていき、病院と読者の皆様の架け橋となることを願ってやみません。なお御存知の方も多いと思いますが、複十字病院ホームページの「あかれんが」のところをクリックしていただければ、過去2年余りの分の「あかれんが」も見ることができます。(KAZU)

## 表 紙 の 写 真

つつじとアゲハチョウ(躑躅と揚羽蝶)です。まばゆい5月の光の中で輝く命にちょっと感動しました。保育園の運動会の息子たちを写したい、と20年ほど前に始めた一眼レフカメラも3代目です。本欄へときどきお邪魔しますので、どうぞよろしく m(\_)m (AK)